馬耳東風

今は秋，窓の外には季節をまたぐように日日草，パンジー，シクラメンなどが咲いている．田舎で花に囲まれて育ったためか，花の思い出は故郷の町・野山の記憶と繋がっている．小中学生の頃，授業が終わった後，皆で花壇に季節の花々を植えたこと，庭仕事が好きだった亡き両親と一緒に四季の花を育て，庭木を剪定したこと等の記憶は今も鮮明に蘇る．故郷を離れて半世紀余，花に関する当時の記憶は強く，移り行く季節毎に学校の花壇，通学路，庭など咲いていた場所まで目に浮かんでくるのも不思議なことだ，数日前のことが思い出せない歳になったというのに．都会生活が長くなり，身近に花が咲き誇る庭が少なくなった今，花が無いと殺風景で心の安らぎが感じられない．ことに子供たちが巣立ち，二人だけの生活になり身の回りから徐々に「赤色」が無くなってきた頃から余計にそれを感じる．赤色は脳を刺激し，気持を若返らせる効果があると言われる．白，黄色，紫などどれも美しいがやはり赤い花が最も花らしく感じる．散歩の途中でも特段意識している訳ではないが，頭の中に描かれた花地図を思い浮かべながら目は常に花を追っている．花は豪華さにおいては大輪に勝るものはないが，路傍に楚々として咲く可憐な花もよく見ると魅力的なものがある．綺麗な花も良いが山野草のような清楚で風情のある花を見ると自分でも育ててみたくなる．色，形，香りなど実にさまざまな花に魅かれて散歩するのも楽しいものだ．

私事で恐縮であるが，自宅では狭い庭に赤系の花木を植え，プランターで種々な草花を育てて楽しんでいる．店頭に並ぶ鉢物には及ばないが，綺麗な花を咲かせるために土造りに励み，給水，草取りに時間を費やしている．ホームセンターでどんな花も簡単に手に入るが，種を播き，苗を育て蕾が大きくなる時の喜びは格別である．最近では，品種改良され美しい花をつける草花が次々と出てくるが，それらは概しては栽培が難しく，更に花の系統によっては一代交配種で花が咲いても結実しないものが多い．球根でも改良品種は，初年度は綺麗に開花するが，掘り上げて冬越しした後の発芽が悪い．遺伝的に弱く環境に適応し生き延びることが難しいのか，世代を経るうちにいつの間にか原種に近い系統の花ばかりになってしまう．ここにも種子ビジネスの影が感じられる．以前は花の種子，球根などはお互いに交換し合うもので，枯らしてしまうと「花友」を頼って，遠くまで貰いに出掛けたものだ．今は「花友」に頼ることも出来なくなったが，そんな繋がりが復活すれば素晴らしいことだ．10月も半ばになるとそろそろ花壇の整理をして冬支度をしなければならない．屋外で冬越しができない多年生植物は室内に取り込む季節になるが，狭い家が一層狭く感じられ厄介なものだ．単年草で楽しめば冬越しの手間も省けて世話がかからない訳だが，成長を止め，冬を乗り越える植物たちを，春の開花を期待しながら見守って行くのもまた楽しいものである．花を愛する気持ちは洋の東西を問わず共通のもの，殺伐とした世の中だからこそ，人々は心の安らぎを求めて花の世界に遊ぶのだろう．心に愛を，地に花を，世の中が平和であってこそ花を愛でる気持ちが育つもの，来る年が平和で，希望が持てる年になってほしいものである．

（青）